



本研究会年会の開催 ～ポスター発表申し込みの締め切り迫る！！～

第3回日本エピジェネティクス研究会年会在5月22日(金)、23日(土)に開催されます。

現在、一般公募演題のポスター発表を受付中です。

締め切りは3月31日(火)まで！！

詳しくは年会ホームページ(<http://www.tmd.ac.jp/grad/monc/jse/nenkai/index.html>)をご参照ください。

シンポジウム開催・雑誌創刊のお知らせ

▶国際シンポジウム

Epigenetics in Development and Diseases: 4th Asian Epigenomics Meeting

が8月24-25日にシンガポールで開催されます。詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.gis.a-star.edu.sg/epigenomics09>

▶エピジェネティクス関連の雑誌が創刊されています。本会幹事が編集委員の場合も多いですので、選択肢のひとつに如何でしょうか。

Epigenetics&Chromatin BioMed Central

<http://www.epigeneticsandchromatin.com/>

研究課題募集

さきがけ

「エピジェネティクスの制御と生命機能」。

<http://www.jst.go.jp/kisoken/teian/koubo/04-ph2105.html>

エピジェネティクスの制御機構の解明、様々な生命現象とエピジェネティクスの関わり、エピジェネティクスの多様性や異常がかかわる疾患の解析が対象とされています。

NIHのエピゲノムロードマッププロジェクトのシンポジウムから

国立がんセンター研究所 発がん研究部 牛島 俊和

3月16-17日の二日間行われた NIH のエピゲノムロードマッププロジェクトのシンポジウム、それに引き続いて行われた国際ヒトエピゲノムコンソーシアムのブレインストームに出席してきました。

米国4カ所の標準エピゲノム解析センターが決まり、早速、ES細胞やその分化に伴うヒストン修飾、DNAメチル化変化が解明されつつある。次世代シーケンサーによる解析が当然で、ES以外の細胞の解析も相当進んでいる雰囲気であった。我が国でも大規模エピゲノム解析を行う場合、費用対効果、国際協調と競争の視点から考えることが益々重要と感じた。

何より印象的であったのは、標準エピゲノム解析はロードマップの一部に過ぎず、新しいエピジェネティック修飾の同定、技術開発、治療へ向けた低分子化合物の探索、がん以外の後天性疾患でのエピジェネティック異常の解析など、幅広い分野で力強く研究が推進されていることである。マウスでのDNAメチル化異常の系代的な伝達、高脂肪食による肝細胞でのエピゲノム変化、自殺者の海馬での糖質コルチコイドレセプターのメチル化など、実に幅広い分野で研究が推進されていた。疾患克服のみならず、生活の質向上のためのエピジェネティクス・エピゲノム研究を実施しようという NIH の強い意志があった。

情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしくお願いたします。お近くの広報委員(牛島俊和、梅澤明弘、角谷徹二、古閑明彦、佐々木裕之、中島欽一各幹事)に気軽にe-mailください。

日本エピジェネティクス研究会事務局
東京医科歯科大学 医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野内
庶務担当幹事 湯浅保仁
担当：小澤良子
住所：〒113-8519
東京都文京区湯島1-5-45
TEL:03-5803-5184
E-mail: jse.monc@tmd.ac.jp